

基山町議会

議長 品川 義則 様

厚生産業常任委員会

委員長 末次 明

所管事務調査報告書

本委員会は、所管事務の調査を終了したので、その結果を報告します。

記

1 調査事項及び調査期日 令和元年7月24日（水）

- (1) 町営住宅施設の現状について（園部団地及び本桜団地の現地視察）
- (2) 病後児保育施設の運営について（こども課より現状及び視察先説明）

2 調査結果

町営住宅については、園部団地及び本桜団地の現地視察を行い、病後児保育施設の運営については、こども課より現状の説明と視察内容の説明を受けた。

(1) 町営住宅

園部団地（67戸 建設年度昭和41～49年 入居世帯56戸137人 空き11戸）

割田団地（60戸 建設年度昭和46～48年 入居世帯56戸108人 空き4戸）

本桜団地（120戸 建設年度昭和54～平成元年 入居世帯91戸210人 空き29戸）

町の公営住宅は合計で247戸あり、203世帯455人が入居し44戸が空き戸数となっている。60歳以上の契約者割合が53%であり、園部団地は67%である。

今回、園部団地と本桜団地の空き部屋の数件について現地視察を行った。担当課からは現在、町営住宅の入居待機者はいないとの説明を受けた。なお、園部団地については既に耐用年限を経過しており、新規の入居者は受け付けていないとのことであった。また、本桜団地については駅から遠く、3階と4階の空きが多いとの説明を受けた。

園部団地は入居者が長期の入居で高齢者世帯が多く、建て替えだけでなく入居者の移転や跡地の利活用が重要課題である。本桜団地は空き部屋の解消と共に利便性の向上に向けた対策が求められる。まずは、町に必要な公営住

宅は何戸なのかを明確にする必要があるが、定住促進課としては今年度中には園部団地の方向性を議会に提示できるようにすることと、割田団地と本桜団地は長寿命化の計画で進める意向であるとのことであった。

当委員会としては、園部団地は老朽化が進んでおり入居者は高齢化が進んでいるが、このまま入居者の退去を待つのではなく、期限を設けて整備計画を立てるよう提案した。

長年の懸案である園部団地の早期対応策を入居者との意見交換やアンケート調査だけでなく、町民が納得する公営住宅を運営する必要がある。本桜団地の空き部屋については定住促進の観点から、より入居率を上げるために浴槽やトイレ等の水回りの内装整備を充実するだけでなく若者子育て世帯向けのモデル部屋を準備してはどうかと提案した。

また、町営住宅の運営を指定管理者に委託することのメリット、デメリットについても検討するよう提案した。

(2) 病後児保育施設

町は、子育てと就労支援の一環として、児童が病気回復期のために集団保育が適当でない場合、その児童の保育及び看護を行い、児童の健やかな成長を図る目的で庁舎と保健センターの間に病後児保育施設を建設予定である。担当課より来年4月開所に向けた病後児保育事業実施スケジュール及び設計図（平面図）にて説明を受けた。

現在、実施設計を作成中で8月末までに完成予定である。パブリックコメント等は10月から予定しているとのことであった。

近隣市町等の状況については、町内居住者も利用している鳥栖市のレインボー保育園やこども課が6月に視察した田川市の状況報告を受け、質疑を行った。施設利用に対する医療機関との連携や看護師や保育士の人員体制は問題がないのかについて質したところ、今後のスケジュールでは令和2年4月の開所を予定しており、設置条例等の整備を準備しているとの説明であった。

当委員会としては、担当のこども課だけでなく、健康増進課と連携をとって設置条例等の対応することや、利用できる病状や利用可能人数、利用可能認定などの利用者への周知徹底等を行うよう提案した。